

## 北陸地方におけるカラフトワシの初記録

小沢俊樹<sup>1</sup>

### はじめに

カラフトワシ *Aquila clanga* は主にヨーロッパ東部から西シベリア南部，中央シベリア南部，中国東北地方，ウズリーチ地方にいたるユーラシア大陸の中緯度域で繁殖し，インドや中国南部などで越冬する．日本では稀な冬鳥として渡来するが，鹿児島県川内市の農耕地では1992年から2000年まで，毎年越冬個体が観察されている（森岡ほか 1995，真木ほか 2000）．北陸地方および京都府では記録がなく，日本海側の周辺地域では1984年2月に新潟県西蒲原郡巻町越前浜海岸での記録があるのみである（森岡ほか1995）．今回，北陸地方でも記録のなかった本種を福井県遠敷郡上中町で観察したので報告する．

2001年7月3日14時36分から14時37分，福井県遠敷郡上中町の駒ヶ岳東南東4kmの谷上空を高度500mほどで旋回するカラフトワシを観察した．この個体は，トビよりも大きく，全身黒褐色，上雨覆は風切羽や尾羽に比べ若干褐色身の強い黒褐色，上尾筒には2, 3枚程度と思われる白い羽，白っぽく目立つ鑑膜，

先端部まで幅広の翼，短い尾羽，両翼の先端を下げる独特の飛翔型などが確認できたことよりカラフトワシ成鳥と同定した．発見時，地上を注視し探餌を行っていたこの個体は，その後，ゆっくりと南西方向へ500mほど滑空し稜線の背後に観察者から姿を消した．

本個体が観察された場所は，海岸から約15km内陸にあり，スギ *Cryptomeria japonica* の植林と落葉広葉樹の2次林が主な植生である．特に谷低標高部を中心にスギの若齢林が広がり，林床はニホンジカ *Cervus nippon* による採餌で低木はほとんどない *Aquila* 属にとって良好な採餌環境となっている．本個体は何らかの理由で迷行してきたものと考えられる．

### 引用文献

- 真木広造・大西敏一．2000．日本の鳥類590．192pp．平凡社，東京．
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男．1995．図鑑日本のワシタカ類．196-207pp．文一総合出版，東京．

The first record of a Greater Spotted Eagle *Aquila clanga* in the Hokuriku district

Toshiki Ozawa<sup>1</sup>

A Greater Spotted Eagle *Aquila clanga* was observed in the mountainous district in Kaminaka Town, Fukui Prefecture, on 3 July 2001. This is the first record of a field observation of the Greater Spotted Eagle in the Hokuriku district.

1. Yakushi 2-106, Matsuoka Town, Yoshida County, Fukui 910-1118, Japan.

1. 〒910-1118 福井県吉田郡松岡町薬師2-106

